

沖縄県の就労支援について

～一人ひとりに合った支援を目指して～

沖縄県 子ども生活福祉部

福祉政策課 福祉支援班

主査 森田 洋平

moritayo@pref.okinawa.lg.jp

沖縄県の概況

- * 日本で唯一、亜熱帯地域に属している。
- * 11月の平均気温(那覇)22.1度
- * 人口1,454,023人(平成27年1月1日現在)
- * 生活困窮者自立支援事業の実施主体
沖縄県(30町村を所管、管内人口:322,820人)
11市(那覇、浦添、宜野湾、沖縄、うるま、名護、糸満、
豊見城、南城、石垣、宮古島)

沖縄県の生活困窮者自立支援制度

自立相談支援事業	委託
住居確保給付金の受付	委託
一時生活支援事業	委託
就労準備支援事業	委託
家計相談支援事業	実施せず(28年度より実施予定)
子どもの学習支援事業	委託(2つのNPO法人)
就労訓練事業	1団体認定(審査中1団体)
就労訓練事業の参入促進事業	委託

11市及び県の任意事業の実施状況

		直営 委託	委託先	任意事業			
				就労準備 支援	一時生活 支援	家計相談 支援	学習 支援
1	那覇市	委託	(公財)労福協		○		○
2	浦添市	委託	浦添市社協				○
3	宜野湾市	直営			○		○
4	糸満市	委託	糸満市社協				○
5	南城市	直営					○
6	沖縄市	委託	(公財)労福協				○
7	うるま市	委託	(合)クレッシエレ	○	○		○
8	名護市	委託	名護市社協	○		○	○
9	豊見城市	委託	豊見城市社協	○			○
10	宮古島市	直営			○		○
11	石垣市	直営					
12	沖縄県	委託	(公財)労福協	○	○		○

沖縄県就労準備支援事業

- * 委託により実施
- * 委託先：(公財)沖縄県労働者福祉基金協会
- * 沖縄県は、沖縄本島及び周辺離島の30町村を所管
- * うるま市、豊見城(とみぐすく)市と共同実施
- * 生活困窮者と被保護者の就労準備支援事業を一体的に実施

- * 就労準備支援の窓口は、中部、南部に設置
- * 就労準備支援員は、各々2名ずつ配置

対象者の考え方

- * 生活困窮者、被保護者
- * ニート、引きこもりも対象としている。
- * 現在では、このまま支援を行わなければ、生活困窮に陥ってしまうおそれの高い方、引きこもりとなってしまう方等も対象にしている。
- * 生活保護受給世帯の進学、就職等をしていない中卒児童、高校に在学しているが、不登校気味、卒業後の就労に向けての支援が必要な高校生なども対象としている。

プログラムについて

- * 名称:就労準備講習
- * 期間:5週間を中心に実施しながら、共同実施市及び町村にて2週間のプログラムを開催
- * それぞれのプログラムは、ワーク(座学)、フィールド作業、就労体験などから構成されている。

5週間プログラム

- * 体力作りの支援としてのウォーキング、畑作業
- * SST、アサーション・トレーニング
- * 企業見学、ボランティア活動

- * 長期のプログラムにより、連続した関わりを持てる。
- * 参加者の特性把握が可能
- * 拠点型のため、参加者同士の信頼関係を築きやすい

ワーク(座学)等の様子



フィールド作業、ボランティア体験



2週間プログラム

- * 地域でのイベントやコミュニティ活動を通して、社会参加し、他者と関わる機会を増やす
- * 短期のプログラムであるため、参加しやすく、社会参加のきっかけ作りにもなっている
- * 町村部でのイベント参加型、出張開催により地域資源の活用を図っている

プログラムの進め方・工夫など

- * 事前面談により、体調面、就労意欲、現状課題の確認
- * 短期・長期の目標設定
- * 日程通りのプログラム実施ではなく、参加者の意見、希望を取り入れながら実施
- * 開催中は、毎回「日誌」を活用し、参加者が当日の日程を理解したり、時間管理を行っている
- * 出来たこと、出来なかった事の振り返り、文章を書く習慣を身につける
- * スタッフと参加者が「交換日記」のようにコミュニケーションを図り、信頼関係を構築

お菓子づくり、おもちゃづくり



プログラムの効果

* 日常生活自立

昼夜逆転した生活の改善、食生活を意識する等生活リズムの改善につながった

* 社会生活自立

自ら話しかけることが苦手な方が挨拶できるようになり、コミュニケーション能力の改善につながった

* 就労自立

ボランティア体験、就労体験、企業見学等を通して、就労意欲喚起につながった

参加者の声

- * 人との違いを当たり前的事として考えられるようになった。体力の調整ができた。
- * 受ける前よりだいぶ体力、集中力等がついたようにおもいます。友達が増えた。
- * バス通勤が楽しみになった。スタッフや受講生の皆さんと出会えた。
- * 家を出る時はイヤだと思うが、セミナーに行けば楽しくなる。楽しくなった。
- * 自分から人に話せるようになった。
- * 会話が気軽に出来るようになった。

今後の課題

- * プログラム終了後、次の支援までに時間がかかる
 - 参加者の就労意欲が低下する傾向あり
 - 終了後は、中断なく、継続した支援を提供
- * 就労に繋がった後に「その後の支援」がなくなる
 - 就労定着しない
 - 就労定着への支援の必要性

今後の方向性

- * プログラムによる支援だけでなく、参加者それぞれが生活している身近な地域社会との連携を図っていく
- * 参加者に合った就労支援を考えていきながら、参加者が地域社会に参加できる場を作る
- * 支援を通して、「社会資源の開発」を行う
- * 支援者の熱い「思い」に行政担当者がいかに「意味づけ」をして答えていくか